

第三者からのご意見

ムラタのCSRに寄せて

今年度のムラタのCSR Reportでは、「事業とCSR」について踏み込んだ記述をされたことと、環境保全活動やCSR活動の担い手である従業員の顔が分かる報告書という2つの点が特徴的です。

「事業とCSR」では、主力製品である積層セラミックコンデンサが社会的インフラのひとつであることを強調され、その技術力および生産力をCSRの視点から説明されています。事業を通じた社会貢献は、企業の最も重要な社会的使命ですので、社会的インフラに貢献する企業として自社を位置づけられたことはCSRとして大きな意味を持ちます。次の段階として、このような考え方を具体的な活動に結び付けていくことが大切です。たとえば、品質保証や事業の継続性の確保は重要な社会的責任事項になりますので、そのための目標や管理体制をCSRの視点から見直して、必要に応じて情報開示していくことが求められるようになると思います。

従業員の顔のわかる報告書という点では、環境保全活動やCSR活動に取り組んでいる従業員の生き生きとした姿が紹介されており、会社の活力を感じさせます。また、このような編集によって、従業員の環境やCSR活動への関心を高めることも期待できます。従業員は、最も重要なステークホルダーですので、このような会社の姿勢は高く評価できると思います。今後は座談会や対談のような意見交換の記事もあってもよいかもしれません。

このようにムラタの報告書はユニークな特徴を持つものですが、CSR Reportとして見た場合、定量的な情報も織り込んでいくことが今後は重要になると思います。財務情報については、数値情報が掲載されているので、CSR情報についてもこのような数値情報を、記述情報と一緒に掲載されれば、内容がより一層具体的に理解できるようになるでしょう。もちろん、詳細な情報はすべてwebで開示されていますが、主要な情報だけでも報告書に掲載されれば、CSR Reportとしての価値は一層向上すると考えます。

そのためには環境やCSR活動に関する目標となるパフォーマンス指標が必要になると思います。現在、財務報告書とサステナビリティ報告書を結合した統合報告書を作成する動きが世界的に進んでいます。ムラタの報告書は、財務とCSRをまとめた統合報告書としての特徴を持つので、是非統合報告書としても世界的な評価を受けるような報告書のレベルへ発展させてほしいと期待しています。



神戸大学大学院 経営学研究科 教授

國部 克彦氏